

第8回 デフリンピック運営委員会

(議事概要)

1 開催日時

2024年10月22日(火) 10時00分から12時00分まで

2 開催場所

戸山サンライズ全国障害者総合福祉センター 2階大会議室

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)

副委員長 薬師寺 道代(医師)

延與 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)

太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)

畑中 淳子(弁護士)

早瀬 久美(デフリンピック選手)

古屋 留美(東京都生活文化スポーツ局長)

石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長) ※欠席

○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・5月の第7回運営委員会では2024年度デフリンピック・フェスティバルについて皆様にご承認を頂いた。
- ・本日は、デフリンピック・フェスティバル開催について諮りたい。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより、次第に沿って議事に入る。

○議題(1) デフリンピック・フェスティバル開催について

(久松委員長)

- ・「デフリンピック・フェスティバル開催について」デフリンピック運営委員会事務局から説明させていただく。

(倉野事務局長)

- ・第7回運営委員会において、今年度の実施方針として、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で、全国8か所で実施することを承認いただいた。
- ・進捗状況は、2枚目の「実施状況一覧」のとおり、福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市の5か所で、主に大規模集客施設、自治体または民間の大規模集客イベントで実施したところである。いずれも、主に大会やデフアスリート、デフ競技のPRや啓発、手話言語・国際手話体験、デフアスリート講演を行い、福岡市では約400名、青森市では約500名、横浜では約350名、徳島市では約160名、富士見市では約1,300名と併せて約2,700名を超える市民の参加があった。
- ・自治体等の関係先と積極的に調整を進めてきたところ、予定していた開催箇所以外からも

開催の要望を受けた。提案内容を確認したところ、大会の気運醸成に資するものであることから、開催箇所を1か所増やし全9カ所で開催することとしたい。

- ・今後の実施予定は3枚目の「承認済み/申請準備中」にあるとおり、江東区、京都市、かほく市、名古屋市の4か所である。
- ・なお、開催終了後、主催団体から報告書、決算書、領収書等の提出を受けて審査を行うとともに、実施状況を踏まえ来年度の事業実施に活かしていく。

(久松委員長)

- ・デフリンピック・フェスティバル開催について、ご質問・ご意見はないか。

(太田委員)

- ・私も福岡のフェスティバルに協力したが、非常に盛り上がった。参加者400人とあるが、それ以上の集客があったのではないか。個人的には、1,000を超えているのではないかと思う。

(倉野事務局長)

- ・400人という数字は、福岡県聴覚障害者協会からの報告を基に掲載したものである。博多大丸前の大通りが会場だったが、そこに設置されているセンサーでは4,500人くらいの人通りがあったという情報もあったので、太田委員のおっしゃるとおり、1,000人を超える人が見ていたのではないかと思う。

(薬師寺委員)

- ・大きいスペースでの開催というところが、大変有効だと思う。人数に限らず、いかに多くの方に目を止めてもらえるのが大切。Facebookにも「イベントを見た」という書き込みをたくさんいただいた。展示の様子等を会場にいらっしゃった方々がSNSで発信し、さらに多くの方が目に止めるという結果に終わっている。人数にこだわらずさらにフェスティバルでのオープンスペースを有効に活用してほしい。
- ・フェスティバルだけでなく、多くの競技会場で、試合のある会場にブースを設けてデフスポーツやデフリンピックについて広報するという活動がさらに活発になってきている。私たちもその情報をキャッチし、発信をしていく必要があるのではないかと考えているので、ご協力をお願いしたい。

(倉野事務局長)

- ・福岡と青森のデフリンピック・フェスティバルに行ったが、ご意見いただいたとおりオープンスペースを利用することは非常に有効だと思う。市民が気楽に足を運び展示を見ることができ、草の根的な広がりを実感した。
- ・いろんな競技会場でのPRだが、京都市ではパープルサンガ及びハンナリーズというチームに協力をいただきながら取り組むという試みを行う。効果が大きければ今後も協力していただきたい。

(古屋委員)

- ・イベントをやるたびに得られた学びを次のイベントに活かして、より良いイベントにしていくということをされており、素晴らしいと思っている。
- ・手話体験を一緒に行っているのも、非常に取り組みやすく子どもたちもできるというところで、とても素敵イベントだと思った。
- ・最初の挨拶の中でポスターの話があったが、今回のポスターはデフリンピックという手話が非常に大きく写っていて、濃いめのピンク色で役所の中で作成するポスターと比べて華やかで普段と違う。都庁の広報の専門家の方と話をし、目立つようにした方がよいということで出来上がった。とてもかわいらしく、アスリートの真剣な様子も写っていて、都庁の中

でも非常に好評。普段は都庁内にあまりポスターは貼らないが、これについては都民の方が通られるところに貼っているので、ぜひご覧いただきたい。また、いろんなところで活用していきたい。

(畑中委員)

- ・いろいろな場所で、オープンスペースでの手話教室とかスタンプラリーとか塗り絵とか、とても楽しそうなアクティビティがあって素晴らしいと思う。終わった後のアンケートを実施して、やってみてどうだったかというところを我々にも共有していただきたいし、現場で動いている方に、大変好評だったという意見が伝わると、やる気にも繋がると思う。
- ・宣伝という意味では、体験した方もしくはイベント来場者にハッシュタグをつけてつぶやいてもらう等、SNSで拡散してもらえそうな工夫があると良いと思う。

(倉野事務局長)

- ・今のところ、開催済みの場所では、主催団体としての報告をいただいただけで、参加者からアンケートを取っていない。フェスティバルは残り4つあるが、その主催団体と相談しアンケートを取れないか調整できればと思っている。

(清水部長)

- ・先ほど古屋委員の方からもお話があったが、これまでのエンブレムのポスターに加え、今回新しく二種類のポスターを作成し、交通機関では都営交通はもちろん東京メトロにもお願いし、都内の公共施設にも掲示させていただいている。引き続き、多くの方の目に留まるように掲示等を進めていきたい。

(延興委員)

- ・アスリート自身に光が当たるようなPRはすごく大事だと思う。概念としてデフリンピックを応援するのと、どの競技のどの選手を応援するというのでは、随分親しみが違うと思う。ぜひメダルを取りそうなアスリートにフォーカスしたPRをしていければ良いと思う。

(早瀬委員)

- ・このピンクのポスターはお二人の方が写っているが、掲示前にご本人から感想をお聞きした。綺麗にメイクしてもらって撮影したという話をお聞きし、スポーツの価値を上げる良いきっかけになったと、個人的に思った。

○報告（1）懲戒審査委員会の委員長及び副委員長の選任について

(久松委員長)

- ・まず、懲戒審査委員会の委員長及び副委員長の選任について報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・デフリンピック運営委員会の懲戒処分を実施するに当たり、処分方法及び手順の公正性、公平性及び透明性を担保することを目的とし、懲戒審査委員会を設置している。委員の選任については、2023年11月7日の第3回運営委員会で、渡辺委員、河原委員、田門委員の3名を承認いただいた。
- ・2024年7月5日に第1回懲戒審査委員会を開催し、委員長・副委員長の選任を行った。懲戒審査委員設置要綱第4条に、委員長については委員のうち外部有識者を充てる、副委員長については委員の中から1人充てるとしており、互選の結果、委員長は渡辺委員、副委員長は河原委員に決定した。
- ・次回以降は、懲戒処分案件が発生した際に委員会を開催することを確認した。

○報告（2）第3回コンプライアンス委員会について

（久松委員長）

- ・引き続き、第3回コンプライアンス委員会について報告させていただく。

（倉野事務局長）

- ・コンプライアンス委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員のコンプライアンス違反への対応について、運営委員会の諮問に対し審議し、意見を具申するものである。
- ・7月5日に第3回コンプライアンス委員会を開催し、2024年度デフリンピック運営委員会研修実施計画の変更や「コンプライアンス業務点検チェックシート」の作成について審議を行った。
- ・研修実施計画の変更については、「デフリンピック運営委員会危機管理マニュアル」の「個人情報漏洩・滅失・き損等」の中で、防止策として「年に1度研修を実施する」と定めたことに伴い、10月実施のコンプライアンス研修の内容に「個人情報漏洩・滅失・き損等の防止について」を、追加することを承認した。
- ・コンプライアンス業務点検チェックシートの作成については、スポーツ庁が策定したガバナンス指針の原則5-5に基づき、半年に1回コンプライアンスに関する自己チェックを実施すること、また、その方法として「コンプライアンス業務点検チェックシート」を作成することを承認した。
- ・次回開催は10月末である。今後も、デフリンピック運営業務に係る役職員の規範意識醸成を図るとともに、役職員がコンプライアンスに反することなく業務を遂行できるよう取り組む。

○報告（3）第3回利益相反管理委員会について

（久松委員長）

- ・続きまして、第3回利益相反管理委員会について報告させていただく。

（倉野事務局長）

- ・利益相反管理委員会は、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の利益相反関係を審査するものである。
- ・7月31日に第3回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。
- ・利益相反管理チェックシートの確認については、スポーツ庁が策定したガバナンス指針の原則8-1及び利益相反管理規程第6条に基づき、役職員等から提出された2024年度第1四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認、承認した。
- ・利益相反自己申告書の確認については、役職員等（新任または申告内容に変更があったもの）から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認、承認した。
- ・利益相反管理委員会は今後も適時開催し、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するよう、取り組んでいく。

○報告（4）ボランティア募集について

（久松委員長）

- ・次に、ボランティア募集について、清水部長より報告をお願いします。

(清水部長)

- ・ボランティア募集について、プレスの内容を事前に皆様にも情報提供させていただいているが、具体的に募集を開始する 11 月 15 日に向けて、詳細の内容も含めたボランティア募集要項を策定し公表していく流れとなる。
- ・障害のあるなしや年齢等に関わらず、多様な方々に参画いただき共に大会を作りあげる貴重な体験ができる機会として、また、大会の開催を契機にデフリンピックやデフスポーツへの理解を広げ、共にスポーツを楽しむ互いの違いを認め尊重しあう共生社会作りに貢献していくことを目指すというコンセプトのもと、募集を実施する。
- ・募集人数は約 3,000 人、活動期間については来年の 11 月 10 日から 28 日までの期間のうち、原則 3 日間以上、1 日あたり 5 時間～最大 8 時間程度ということで考えている。
- ・応募要件については、来年の 4 月 1 日時点で 18 歳以上の方としておりまして、※印で注釈をつけているが、手話言語技能は必須要件ではないという形で定めている。
- ・募集期間については、ちょうど大会 1 年前となる来月 11 月 15 日から年明けの 1 月 31 日までの期間としており、活動場所につきましては各競技会場もしくはデフリンピックスクエア、その他空港（羽田・成田）での活動を予定している。
- ・主な活動内容は、会場における選手、観客、関係者の案内誘導や各会場での運営サポートあるいは手話言語を活かした各種サポートを予定している。
- ・提供物品として、ボランティアの方にはボランティアのウェアやボランティア活動保険の他、活動日や活動時間に応じた交通費・飲食費相当として、それぞれ 1,000 円分のプリペイドカードの提供も予定している。
- ・応募は Web 専用フォームからの申し込みとなり、応募人数が募集人数を超えた場合には、希望する活動場所等を踏まえ抽選を実施することとする。
- ・ボランティアになられた方には、大会までに研修を受けていただく。共通研修の他、手話言語研修、ろう者の文化等の理解研修、および配置・役割別研修をすべてオンラインでのオンデマンド研修で実施する予定である。

○報告（5）大会 1 年前の取組

(久松委員長)

- ・大会 1 年前の取組について、引き続き清水部長より報告をお願いする。

(清水部長)

- ・大会 1 年前を迎えて、様々なメディア等への発信や大会の認知度向上を目的に、11 月 15 日（金）、16 日（土）に、アーバンドックららぽーと豊洲のスペースをお借りして、大会 1 年前イベントを開催する。ろうあ連盟様他、東京都聴覚障害者連盟様にもご協力をいただきながら、デフリンピックをみんなで盛り上げる、きこえない世界を見て知って体験するなど、様々なコンテンツを検討している。
- ・セレモニーの中で応援アンバサダーやデフアスリートの方々にもご出席いただく予定になっており、連盟石橋理事長にもご登壇いただく予定である。
- ・先日デフリンピックのメダルデザインについて、子どもたちの投票をやらせていただいたが、最終的に選ばれたメダルデザインの発表もこの場で行いたいと思っている。

○報告（6）選手団団長セミナーの概要

(久松委員長)

- ・次に、「選手団団長セミナー」について、北島部長より報告をお願いする。

(北島部長)

- ・選手団団長セミナーはシェフデミッションという言い方をする。大会成功に向けて11月18日から20日の3日間の予定で、各国の選手団に東京に来ていただき、団長セミナーを開催する。18日、20日が全体会ということで、様々な大会準備の情報を提供させていただく。
- ・1年前に情報等を提供する非常に大きな理由は、各国選手団が日本に来るときに様々な準備をしていただくためであり、日本に来る際には必ず医療保険に入ってきてください等、必ず選手団にお願いしたいことを中心にお話させていただく。
- ・また、全体会の中ではポイントを絞ったスライドを作って説明をさせていただく予定。
- ・3グループに分かれて使用予定の会場をいくつか視察し、要点をまとめた形でご説明させていただく。21日は、オプションで福島、静岡、伊豆大島の視察も、ご希望に応じてご参加いただく予定。
- ・このシェフデミッションに関して、運営委員の皆様には事前にご出席の確認のご連絡をさせていただいている。ぜひ運営委員のみならずにも見ていただき、各国選手団の方々がどんな形で我々とコミュニケーションをとっているのかというところも、ご覧いただけるとありがたい。
- ・1年前にこのようなことをすることで、各国選手団の様々な思いや要望などを巻き取り、大会の成功に繋げていく。

○報告(7)その他

(久松委員長)

- ・最後に、その他として事業団から報告がある。

(板倉部長)

- ・その他として、大会準備状況についてご説明申し上げる。

(資料を投影)

- ・まず、会場装飾についてご説明する。大会のカラーであるさくら色をベースとして、競技会場を彩るバナーとのぼりを作成した。バナーについては会場の中に掲示するので、競技の妨げにならないようなシンプルなデザインで制作をしている。また、のぼりの方は、写真で見るとポツポツと並んでいるが、実際はもう少し数を並べて右側にあるような桜並木でお迎えするようなデザインで考えている。このデザインは大会までのイベント等で活用するとともに、大会時については、選手が高いパフォーマンスを発揮できるような空間を作っていきたいというふうに考えている。
- ・続いて、競技日程についてご説明する。11月15日が開会式、11月26日が閉会式となっている。サッカーについては開会式前の14日から試合を開始する予定となっている。実際の選手のエントリーはこれからとなるので、エントリーの状況も踏まえながら詳細について決めていければと思う。
- ・最後に、大会時の放映についてご説明する。私どもデフ本部として、国内また海外の方が競技の状況をご覧いただけるよう、各競技の状況をネット配信する予定である。YouTubeでご覧いただけるような形で、今発注の準備を進めているところである。それに加えて、テレビ局の放映についても働きかけをしているところで、今後いろいろと対応していきたいと思っている。こういった形であればテレビ局の方に関わっていただけるか、その辺について、各報道局の意向を確認していく予定である。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・(1)～(7)の項目について報告をさせていただいた。
- ・それではここで、出席者の方々から意見をいただければと思う。太田委員から如何か。

(太田委員)

- ・ICSDの総会に出席したが、東京デフリンピックに非常に関心が強いという空気があった。
- ・事務所への問い合わせはほとんどメールだが、メールよりも国際手話で直接オンラインで話をする機会も欲しいという声があった。国際手話ができる人を配置する手間もかかり大変だとは思いますが、メールだけではなく、オンライン等映像を活用した方法での会議というのでも考えなければいけないと思っている。
- ・選手団団長セミナーで各国が集まるが、100%集まるわけではない。今後いろんな問い合わせが多く出てくると思うので、どのような方に受けてもらうか、そしてメールだけではなくやはり国際手話で話すようなことができる環境も作っていただけるかどうか伺いたい。

(北島部長)

- ・宿泊関係の問い合わせを多くいただいている。数や日にちといったものは、記録として書面で残したい。その部分と、例えばどんなホテルなのかといったような感覚的な部分とが情報として必要になってくるが、どちらか一方ではなく、皆さんに納得していただくため、そして確実に宿を確保するために、メールと同時に手話での問い合わせの対応というのを検討していきたいと思う。
- ・そういった意見があったということは、公式旅行代理店の方にも伝えてある。彼らもやはり確実な情報で動きたいということでメールを中心としていたが、こういった意見があるということは、なんらか対応を考えていかなければならない。シェフデミッションに来た人たちには、直接対面でやり取りをするような形で対応できる体制を組む。
- ・個別の各国選手団とのやり取りに関しては、時差の問題もある。朝早くもしくは夜遅いという課題がどうしても出てくるため、手話の確保も同じように難しい部分があるが、東京の大会運営の信用を失わないような対応をしていきたい。

(久松委員長)

- ・これにつきましては、基本的にはIOC、ITCが電話により英語でやることが多いが、オンラインで国際手話でやり取りをするという時の一番の課題は、電波状況である。電波の状況が悪くフリーズしてしまう国々があるというところで、難しいかなという気はしている。

(早瀬委員)

- ・今、様々な準備が進んでいるということで、本当に楽しみになった。
- ・個人的にはボランティアについて問い合わせを受けることが非常に多く、私が東京2020オリンピック・パラリンピックの時のボランティアを体験した時から繋がりがあるメンバーが、次はデフリンピックのボランティアもしたいということで声掛けがある。募集要項が詳しく分からなかったため、競技ごとに専門の知識がある人を選ぶのか等の質問をされても答えようがない状態だった。
- ・思ったよりも皆さんの気持ちが盛り上がっているんだなということで、本当に期待しているところである。

(延興委員)

- ・準備がすごく進んでいて、本当に楽しみになってきた。
- ・8月から9月にパリのパラリンピックに個人的に行きまして、初めてボランティアをやり、

また、たくさんの競技も見てきた。その状況も踏まえて何点かお願いしたい。

- ・まず1つはボランティアのことである。希望者が多かった場合は抽選となっているが、希望する方の中にはすごく準備をされている方もいればそうでない方もいるし、やはりボランティアの経験豊富な方にリーダーのような役をやっていただくことがすごく大事だと思うので、ぜひ単純に抽選ではなくて、その人が活躍していただけるようなボランティアの選考をしていただきたいと思う。
- ・手話ができないけど大丈夫かという質問が非常に多い。デフリンピックのボランティアは手話ができないといけないと思っている方が意外に多いので、実際には研修の中で手話も学ぶということだが、ぜひそのことをもっと宣伝して、これを機会にチャレンジしてくれる人が出るような広報をしていただければと思う。
- ・パリでいろんなパラスポーツを応援した中で非常に印象的だったのが、日本が金メダルを獲った車椅子ラグビーの決勝戦である。そのときに日本の応援団が日の丸の小旗を1,200枚持ち込んで会場中で配っており、その結果、会場のほとんどの人が日の丸を持って応援している状況になった。日本対アメリカの試合だったが、日本でテレビを見ていた人は何が起こったんだと思ったそうで、会場の人にも応援することによって競技に夢中になって楽しめたという、ダブルの効果があったと思う。これから子供たちの観戦事業を企画されると思うが、ぜひ会場に来た子供たちにそれぞれの国を応援するように役割を与え、海外からきた選手も嬉しいし、応援する子供たちも知らない国のことについて学び、ぜひいくつか簡単な手話も覚えて、夢中になって応援ができる環境ができるといいなと思う。
- ・あと1年、準備等大変だと思うが、頑張っていきましょう。

(清水部長)

- ・ボランティアの選考の考え方については、申し込みの際に、希望する活動場所や申し込まれる方の希望を聞くようなフォームを考えているので、そういったものを踏まえながら選考していきたいと思う。具体的なことは検討中ですので、いただいたご意見を踏まえながら内部で検討する。
- ・手話ができない方については、先ほどお配りしたチラシにも書いてあるが、少し文字が小さいということもあり、いま延興委員がおっしゃっていただいたように、一般の方やメディアの問い合わせでも聞かれることがある。正式に募集を開始する際には、もう少し目立つように伝わるような表記というのを考えていきたいと思う。
- ・応援のお話もいただいた。ぜひ子どもたちに観戦の機会を作りたいと思っており、いまま来年度に向けて都庁内でも検討を重ねているところである。やはり、子どもたちにとってせっかくの機会なので、観戦スタンドに来てただ見るということではなく、子どもたちにとっても応援される選手にとっても良い機会になるようにいろいろ工夫していきたい。こちらについても、内部でいろいろ検討させていただければと思う。

(久松委員長)

- ・私のところにも、ボランティアとして参加したいという希望がたくさん来ている。みなさんのところにもそういう相談が寄せられていると思う。このボランティアの選考の問題については、公平・公正にやっていただきたい。ボランティアをどのように選ぶのかということについては、なかなか外部に説明しづらい面もあるので、その扱いについてはご注意をお願いしたい。すごく大事なご意見をいただいたかと思うので、ぜひこちらも含めて更に検討していただくよう、改めて東京都のみなさんにはご検討をお願いする。

(畑中委員)

- ・準備が着々と進んでおり、非常に楽しみにしている。

- ・ガバナンスの観点から報告事項（１）～（３）で各委員会の説明をしていただいたが、ガバナンスもだいぶ整っていたのではないかと思います。ここまできちんと委員会を設置し人を配置して実際動かしていくというところまでやっていただいたというのは、事務局のみなさんを含め、本当に大変だったと思う。
- ・特に素晴らしいと思ったのが、懲戒審査委員会とコンプライアンス委員会を分けて設置をしており、懲戒審査委員会は懲戒について、コンプライアンス委員会についてはコンプライアンスの強化・推進についてと、それぞれがそれぞれの役割を兼任・兼務するような団体も多いと思うが、ここをきちんと分けているのは本当に素晴らしいと思った。
- ・実際に動き始めているということだが、やはりそれぞれの委員会でそれぞれの役割を果たしていただくのはもちろん大事だが、それで終わりではなく、我々運営委員会の方から、この案件に関してはコンプライアンス違反があるのではないかとか、利益相反取引に引っかかるのではないかとことを各委員会に意見を求めたり、双方向で機能していくというのがすごく大事なのではないかと思います。
- ・こういう風にきちんと整備したというそれだけで、この運営委員会がクリーンな大会・公正な大会に対して強い意識持っているということが、世の中の方にもわかっていただけるのではないかと思います。

（薬師寺委員）

- ・様々な取り組みが進んでいるということが確認できた。私からは、先ほどの説明について３点意見そしてお願いがある。
- ・１点目。ホテルについて問い合わせをいただくという話があった。ボランティアの募集の際に様々な研修をしていただけるという説明もあった。２点に共通するお願いとして、ホテルの責任者もしくはホテルの職員の方にもボランティアの研修を提供していただきたい。ろう文化について・手話について更に学びを進めていただく準備期間となるかなと思うので、研修の共有について考えていただきたい。
- ・２点目。放送についても説明があり、放送についての働きかけをしていただいているということだったが、開会式・閉会式はやはり人数制限がある。全国のろう者の皆様方はとても楽しみにしており、多くの方からいつチケットを購入できるのかと聞かれるくらい、その会場に足を運びたいと思っている方が大勢いる。その中で、会場に行けなかったとしても、各局が開会式・閉会式を放送していただくことによってそれを見ていただける、そしてそこに手話通訳がつくことによって多くの情報が共有できると思う。そういう試みについても各局に働きかけ、そしてぜひ実現していただきたいと思っている。
- ・３点目。ボランティアの募集について、実はろう者の皆様方の中でも様々な特技を持っている方がいらっしゃる。フラワーボーイ・フラワーガールのためのフラワーアレンジメントや、聴覚検査をする場面での言語聴覚士など、得意とする場面でボランティアとして参加したいという方もいらっしゃる。ボランティアの募集をする際に、どういう特技・国家試験を持っているかという情報を集めていただいてもよいかもしれない。このようなことについて考えていただければと思う。
- ・先ほどコンプライアンス等についてご意見をいただいたところだが、そのこともぜひ広報していくべきではないかと思う。ここまでしっかりと公平そして透明性高く運営・運用しているということや、様々な不祥事を起こさないための取り組みについて、多くの皆様方に知っていただく必要があるのではないかと思う。その辺りのところ、東京都、ろうあ連盟の方にもご協力をいただきたいと思う。

（北島部長）

- ・ホテルの研修については、公式旅行代理店へ委託をする最初の段階で、ホテルに研修をすることというのを委託内容に入れている。ボランティアの方への研修についてはこれから内容を詰めていくが、情報を共有し、ホテル側はサービスを提供する側としてより掘りこんだ理解をしてもらうことをしていただきたいと感じている。

(板倉部長)

- ・放映の関係で、開閉会式についてご意見をいただいた。開閉会の中継について国内・海外の方が見られるよう検討したい。
- ・テレビ局の方についても、フルで中継していただけるかどうかというのものもあるが、少しでも取り上げていただけるように働きかけをしていきたいと思っている。
- ・ボランティアの配置につきましても、申し込みの段階の情報等を踏まえながら、どういった形でボランティアの内容とその方の特技を組み合わせられるか、それについても検討していければと思っている。

(清水部長)

- ・ボランティアの募集について板倉部長からもあったように、それぞれの特技と大会で使うシーンをうまくマッチングしていければと思う。申し込みの際にどういう風な情報を得るのか・活動できるのかというのは、連盟と事業団とも相談しながらやっていきたい。

(古屋委員)

- ・ボランティアに関して前向きなご提案や期待を沢山いただいております、責任を感じている。
- ・今回ボランティアについてご意見をいただいているのは、ただ単に大会時の運営をサポートしていただく方ということだけではなく、この大会への最も近い最大の理解者でありファンであるそういうコアな方たちだという風に捉えるべきだからということで、こういうご期待をいただいているという認識をしている。
- ・4か月にわたる手話言語研修やろうの方々の文化の理解の研修や、この大会を契機に、より文化に関して、この活動に関して、ろうの方たちのことに関して理解を深めていただいたり、デフリンピックのスポーツをやってみようという踏み出すような方がでてきたり、そういったきっかけにもなるように、このボランティアの募集から研修から実際に大会に入っていくまでの1つ1つのステップを大切に考えながら、大会まで導いていけるよう頑張っていきたい。
- ・他に選手団団長セミナーなどでも取り組みが紹介されたが、やはりこの中でデフリンピックを東京でやる意義ということをきちんと訴えていきたいと、東京都としては思っている。東京の伝統文化や食材の魅力などを訴えるということももとより、この多様性を追求している都市東京の姿を選手団団長セミナーでも皆様に知っていただき、東京でやることの意義をしっかりと自分たちでも認識し、東京都としても一緒に取り組んでいきたいと考えている。
- ・先ほどポスターのピンク色のことを申し上げたが、事業団の方ののぼりもピンクで2つに分かれていて、1本は桜の根本に近い部分、もう1つは葉が広がっているところに花が咲いて桜というイメージが非常に強く出ており、職員の方がデザインされたということで素敵だと思う。ポスターもそうだが、こういったビジュアルのイメージはすごく重要だと思う。ビジュアルも大切にしながら素敵なイメージをPRしていきたい。

(薬師寺委員)

- ・レスリング、射撃、ハンドボール、テコンドーといった競技については、デフ選出がいなかったということもあり、新しく競技団体と話し合いの上デフ選手の発掘そして育成をしていただいている段階だと認識をしている。先日デフテコンドーの大会があった際に、手話通訳が配置されていなかったということが実際に起こってしまった。ま競技団体の方々も、聴

覚障害をお持ちの選手についてどういう方々が必要なのかという知識も不足しているかと思う。新しく参加していただく競技団体については、さらに知識を深め選手の皆様方や世界からいらして下さる皆様にとって、運営・運用がスムーズにいくようお願いしたい。

(太田委員)

- ・ボランティアのチラシについて、「宿泊費及び活動日以外の交通費は支給しません」のところ、宿泊費がもらえるのか勘違いしてしまうような文面があるので、書きぶりを実態を確認したい。

(清水部長)

- ・宿泊費は支給しない。交通費については、活動日の交通費は 1,000 円相当分のプリペイドカードを提供するが、活動日以外の交通費は支給しない。少し分かりにくいので、表現を考えたいと思う。

【事務連絡】

(久松委員長)

- ・事務連絡ということで、事務局からどうぞ。

(倉野事務局長)

- ・運営委員会の方で昨年度から取り組んできた社会的・文化的プログラムについて、未来へつながるプログラムとして、先日 10 月 4 日にコンテンツ等を大会ホームページで公開した。都道府県や市区町村にも周知をして、活用をお願いしていく予定である。
- ・続いて、デフアスリートをさらに皆さんに知っていただきたいという目的で、デフアスリート登録制度「きらり☆つながれ！日本のデフアスリートたち」のコンテンツも 10 月 21 日に公開したので、お時間のある時にご覧いただきたい。

(久松委員長)

- ・他に委員のみなさまからご報告、ご質問はないか。
- ・本日皆さまからいただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、引き続き大会の成功に向けた準備を進めてまいりたい。
- ・これを持って運営委員会を終了させていただく。

以上